

2025年度 第2四半期 決算説明会 事業概況

2025年11月11日

日揮ホールディングス株式会社

代表取締役会長兼社長CEO

佐藤 雅之

Enhancing planetary health

目次

総合エンジニアリング事業

1. マーケット環境の現況
2. 上半期の受注実績と下半期の注力案件
3. 主要な遂行中プロジェクトの状況
4. TOPICS

機能材製造事業

1. 上半期の実績とマーケット環境の見通し
2. 生産能力強化に向けた設備投資を推進



総合エンジニアリング事業

Enhancing planetary health

1. マーケット環境の現況

海外

【トランジションエネルギー分野】

- 脱炭素社会への現実的な移行に向け、**天然ガス（LNGを含む）**の重要性は各国の共通認識。**需要は中長期的に増加する見通しで、案件も豊富に存在**。顧客は**E-Drive（電動化）**等の環境対策を講じながら設備投資計画を推進。
- 各国の政策や支援による**水素・アンモニア、SAF**の投資計画が存在。しかしオフテイカー確保の不確実性や供給インフラの整備、事業経済性の低下などの要因により、顧客の投資計画は**後ろ倒し**。

【先端技術産業分野】

- **半導体関連分野**や**データセンター**等の設備投資計画が東南アジアなどを中心に着実に進展。

国内

- サステナブル分野では、顧客が政府補助金を活用し計画。投資費用の増加等を受け、**政府の制度設計**や**補助金の交付に時間を要する**状況は継続しており、投資計画は後ろ倒し。
- ライフサイエンス分野では、**バイオ医薬品**などニューモダリティへの投資計画や既存施設改造計画などが進展。
- **食品関連分野**の設備投資（自動化など）も計画検討が進展。
- **保全業務**についても毎年一定程度の需要があり、計画が進展。

2. 上半期の受注実績と下半期の注力案件

上半期連結受注高：約1,020億円
(2025年度受注目標合計：6,500億円)

	海外	国内
2025年度受注目標	5,000億円	1,500億円
上半期受注実績	約470億円	約550億円
上半期 主な受注案件	- カナダ LNG (FEED) - インドネシア LNG (FEED) ※ - インドネシア FPSO (FEED) ※ - モザンビーク FLNG (先行役務) - チェンジオーダー 等 2026年度以降のEPC実現を期待 ※第3四半期に計上のため、上半期受注実績の金額には含まれておりません。	- 保全業務（複数） - ロケット試験・燃料設備 - 原子力関連工事 - チェンジオーダー - 医薬品製造工場改修 - 等
下半期 主な注力案件	- モザンビーク FLNG - パプアニューギニア LNG - 東南アジア データセンター - 等	- 化学 - 食品関連工場（複数） - 医薬品製造工場 - 原子力関連工事（複数） - SAF製造 - 保全業務（複数） - 等

3. 主要な遂行中プロジェクトの状況 - LNGカナダプロジェクト

- 本年6月に第1系列プラントからLNGの初出荷を達成。第2系列プラントも10月30日に完工・引渡しを達成
- 当社およびフルア社は顧客が検討している第2期拡張計画（2026年度FID見通し）のFEEDアップデート役務も遂行中



LNGカナダプラントの全景



初出荷の様子

3. 主要な遂行中プロジェクトの状況

海外

イラク バスラ製油所

完工年：2026年

進捗：

建設工事が概ね完了し、顧客への引き渡しに向けた試運転作業を継続中。



マレーシア ニアショアFLNG

完工年：2027年

進捗：

モジュールヤードでのモジュール製作が概ね完了し、船上へのモジュール搭載が進行中。
マレーシア現場での海上栈橋工事も概ね完工。



国内

栃木県 バイオ原薬製造棟

完工年：2026年

進捗：

建設工事が完了し、現在試運転を実施中。



米国 エチレン増設

完工年：非公表

進捗：

詳細設計は終了。調達もほぼ完了。
建設は主要機器の据え付けが完了し、配管・電気計装工事がピークを迎えている。今後も状況を注視。



サウジアラビア 原油・ガス分離設備新設

完工年：2026年

進捗：

詳細設計が終了し、調達品は概ね現場へ納入済。
建設工事はピークを迎え、配管・計装工事が進行中。

タイ 化学

完工年：2025年

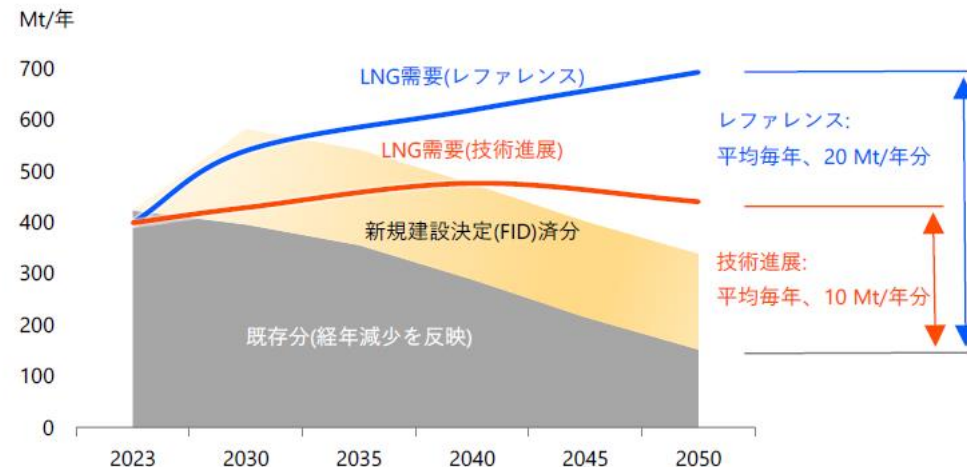
進捗：

全装置が完工し、顧客により操業を開始。

4. TOPICS – 2050年までの世界のエネルギー動向（1）

“トランジションエネルギー”である
天然ガス・LNGの需要は
中長期的に堅調

図3-3 | 世界のLNG需要と生産容量



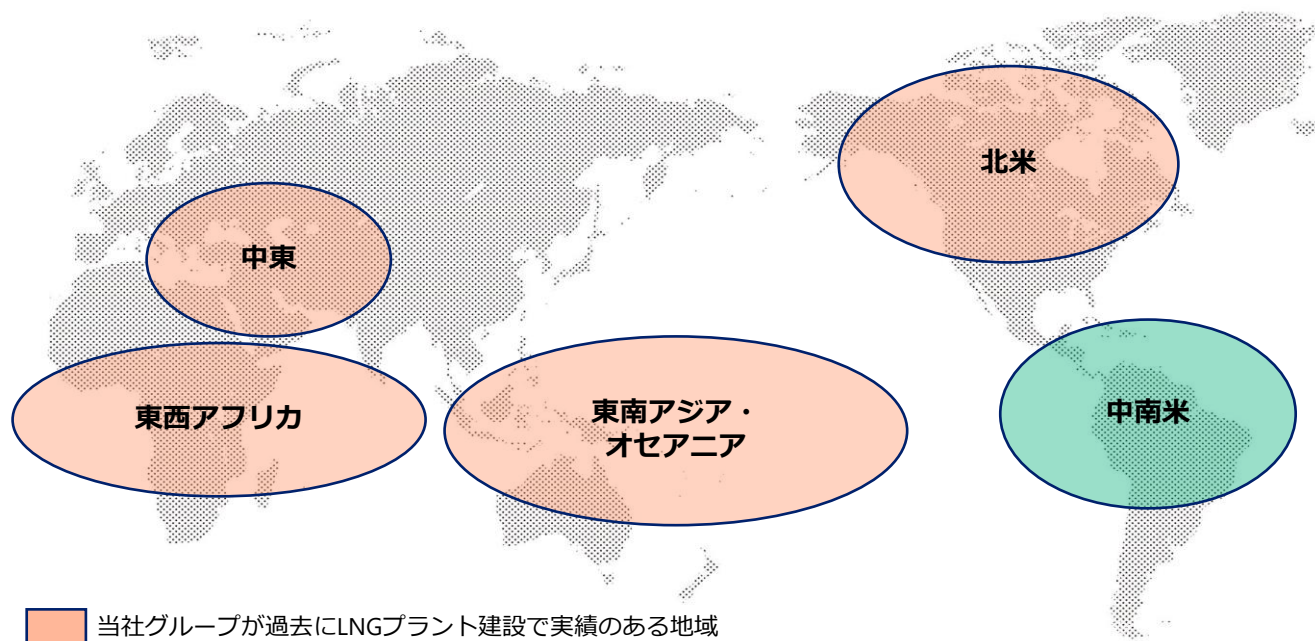
出典：IEEJ Outlook2026および定例報告会資料

LNGプラント投資も継続

- 新設や既設拡張計画
- 既設プラントの改造・更新需要
- 電動化やCCS付帯などの低・脱炭素化（メタン削減を含む）

4. TOPICS – 2050年までの世界のエネルギー動向（2）

今後LNGプラントの投資計画が検討されている地域



LNG分野における 当社グループの 特長・強み

- 数少ない、強固な財務基盤を持つランブサムEPCコントラクター
- LNG・フローティングLNG分野の豊富な実績、モジュール遂行も豊富
- 大型かつ複雑な案件を確実に実現する遂行力
- 独自のモジュール工法、プラントの低炭素化技術など優れた技術力

4. TOPICS - 今後の成長期待分野への取り組み

多様な分野で取り組みを推進中

フュージョンエネルギー

フュージョン（核融合）エネルギー発電の商業化の早期実現に向けた取り組みを支援。



先端技術産業

(半導体関連・データセンターなど)

Exyteと協業し、半導体製造工場やデータセンター建設の第1号案件の受注に向けた営業活動に注力。



次世代型太陽電池

ペロブスカイト太陽電池等の次世代のフィルム型太陽電池の社会実装に向けた取り組みに注力。



CO₂回収技術

CCS分野の事業拡大に向けて、SLBグループとの協業検討を軸に、燃焼後排ガスのCO₂回収分野に注力。



写真提供：SLB Capturi

CO₂バッテリー

日本国内における本格的なCO₂バッテリー商用プラントの導入に向けて、エナジードーム社との協業検討を軸に取り組みに注力。



リチウム精錬

リチウム精錬技術を開発するMetso社と協業検討を開始。事業検討からEPCの実現に向けた取り組みに注力。

機能材製造事業

Enhancing planetary health

1. 上半期の実績とマーケット環境の見通し

2025年度
上半期実績/
2025年度目標

売上高

上半期実績

285 億円

2025年度見通し

540 億円

マーケット環境/
2025年度の方針

触媒・ファインケミカル

日揮触媒化成 (C&C)

<マーケット環境>

- 海外では燃料需要の増加などを背景に**石油精製触媒の需要が堅調**。
- 半導体やエレクトロニクス市場が回復傾向**にあり、シリカゾルを中心とする**ファインケミカル製品全般で需要は堅調**。

<2025年度方針>

- 触媒分野は、**海外顧客への拡販、低・脱炭素分野向け製品の展開**を推進。
- ファインケミカル分野は、シリカゾルなど高需要製品の増産と**販路の拡大**を目指す。

ファインセラミックス

日本ファインセラミックス (JFC)

<マーケット環境>

- 半導体市場は**生成AI向け**を中心に**回復傾向**で、**データセンター向け電子材関連製品の需要が増加**。
- 中国市場向けEV用**高熱伝導窒化ケイ素基板の需要は引き続き堅調**だが、米欧市場向けは減速。

<2025年度方針>

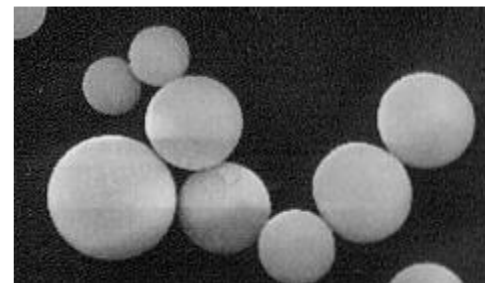
- 半導体製造装置関連部品は**新規顧客開拓や合理化を推進**。
- 高熱伝導窒化ケイ素基板は**需要に合わせ新工場を本格操業**。

2. 生産能力強化に向けた設備投資を推進

中期経営計画・長期経営ビジョンで掲げた 「高機能材製造事業の拡大」に向けて、投資を推進中

日揮触媒化成（C&C）

- 高機能ケミカル向け触媒のほか、高速通信用材料や半導体用機能性研磨粒子などの新規ファインケミカル製品の需要拡大に向け、2023年に取得した事業用地へのインフラ・ユーティリティー設備の導入を開始
- 2025年から2030年にかけて総額約200億円の設備投資（今般の事業用地購入費用を含む）を計画



同社の卓越したナノ技術を活かしたシリカゾルは、半導体の研磨材などに使用されている

日本ファインセラミックス（JFC）

- JFCが生産するパワー半導体向け高熱伝導窒化ケイ素基板は、高い熱伝導率に加えて、優れた機械的性質や絶縁性を有しており、2020年に量産化を開始。現在は同社主力製品の一つにまで成長
- 宮城県富谷市に建設していた高熱伝導窒化ケイ素基板の生産のための新工場が完成。需要動向に合わせて本格操業を開始予定



完成した新工場の外観

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

<本資料に関するお問い合わせ先>

**日揮ホールディングス株式会社
戦略企画オフィス 経営企画ユニット
コーポレートコミュニケーショングループ
Tel : 045-682-8026 Fax : 045-682-1112
E-mail: ir@jgc.com**